

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。今シーズンは、50 週から 5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

2020 年第 10 週の定点当たり報告数は 3.13（患者報告数 15,498）となり、前週の定点当たり報告数 4.77 より減少しました。5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

都道府県別では岩手県（8.86）、大阪府（7.32）、石川県（6.94）、京都府（5.87）、兵庫県（5.29）、奈良県（5.05）、愛知県（4.65）、岡山県（4.51）、北海道（3.85）、滋賀県（3.85）、長野県（3.76）、三重県（3.57）、埼玉県（3.53）、沖縄県（3.38）、の順となっていました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の 5 週間

(2020年第6週～2020年第10週)ではAH1pdm09(55%)、B型(44%)、AH3亜型(1%)の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)をご参照ください。

○2019-2020シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況(長崎県感染症情報センター報告より) :

2020年第10週(3/2-3/8)のインフルエンザ報告は、長崎市(2.18)、長崎県(2.44)で、第9週(2/24-3/1)長崎市(2.71)、長崎県(3.09)と比較すると、長崎市、長崎県ともに減少しました。

いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週以降の報告数が10以上(注意報レベルの流行)となっておりましたが、6週までで注意報レベルの流行がおわりました。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル(1以上)となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。以後、流行レベルを維持しています。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。今シーズンは50週から6週(2/3-2/9)まで報告数が10以上(注意報レベルの流行)でした。今後も注意が必要な状況が続いています。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。